

令和7年度（2025年度）第1回東海市総合教育会議 議事録

日 時 令和7年（2025年）9月22日（月）

午後3時00分から4時15分まで

場 所 302会議室（庁舎3階）

出席者 花田市長、鈴木教育長、堀ノ口教育委員、村上教育委員、久野教育委員、
石川教育委員、木村教育委員、星川副市長

企画部 成田企画部長、中島企画政策課長、名和統括主任、成田主任

教育委員会 小島教育部長、桜井学校教育課長、池田指導主事

こども課 永井こども課長、堤統括主任

欠席者 なし

傍聴者 なし

（内容）

1 協議事項

（1）中学校部活動の地域展開について

事務局（教育委員会）より資料に基づき説明

〔協議にかかる主な意見・質疑等〕

堀ノ口委員：

別紙1の「新たな地域クラブ以外」とは具体的にどのようなクラブか。

指導主事：

民間で行っているスイミングやサッカーなどではグランパスユースなどのことを指す。

石川委員：

新たな地域クラブへの参加意向3割はよい傾向であると感じている。

その上で、残りの7割の生徒が地域クラブに参加せずに何をしているかアンケートを取ってみてはどうか。大人が知りえない生徒たちの新たな意向を知る機会とできないか。また、選択肢が増えることで、自分自身でやりたいことを見つけてもらいたい。

教育長：

参加意向3割が多いととるか、逆に少ないととるかは賛否ある。まだ様子見をしてい

る生徒や保護者もいる中で、生徒がスポーツなどに熱中できる環境を作っていきたい。

星川副市長：

部活動の地域展開は教員の働き方改革の側面と、生徒の多様性を広げる側面もある。
地域クラブが今後増えていくことで、さらに多様性のある活動を期待している。

木村委員：

新たな地域クラブは昔に比べると増えてきている。
現時点ではスポーツ系の地域クラブが多いが、吹奏楽などの文化系も増えることを期待したい。

村上委員：

別紙2の男女比はどのようなか。また、対象の総数は何人か。

指導主事：

男女比は男子343人、女子349人でほぼ1対1の割合であり、その母数となる対象人数の男女比も2,000人に対して1対1となっている。

久野委員：

相撲などの新規競技などがあると良い。
新たな競技を実施する場合に、何か基準などはあるのか。

教育部長：

新たな地域クラブはスポーツクラブ東海が受け皿として作っているクラブと、それとは別で地域の方などが実施するクラブがある。その上で、スポーツクラブ東海の新設の基準は会員となるなどの条件はある。

市長：

鋸山部屋関係者と相撲競技については話題にはあがったが、指導員がいないとのこと。
相撲も含め、新たな競技などは試行的にやってみて、参加者の意向などを踏まえて検討したい。また、あくまでも強制的なものではなく、選択肢を広げるために競技を増やしていけると良い。その上で、市として、カバディも検討していきたい。

星川副市長：

先般の世界陸上を例にとっても、様々な競技に取り組むことで、自分自身の可能性が広がると感じている。部活動で野球をやっていたから地域クラブでかならずしも野球をやる必要はなく、生徒の選択肢を広げたい。

教育部長：

指導者の観点では、スポーツ指導者バンクの活用なども促している。

石川委員：

指導者不足により、教職員にも指導者募集をしているとのことで、多忙化解消のためでもある制度で矛盾していないか。また、地域クラブの指導者となった場合、教員としての評価などに影響はあるのか。

教育長：

指導者として登録する場合、兼業申請をしてもらう。

教員としての評価には関係はない。本制度は、教職員の働き方改革の一つではあるが、教職員が楽をするための制度ではなく、土日の部活動の負担がないことで、平日の授業が充実することを期待している。

指導主事：

現在の教職員の登録状況はスポーツで10名、吹奏楽で2名の計12名。

2 報告事項

(1) 屋内の子どもの遊び場（旧温水プール）について

事務局（企画政策課長）より資料に基づき説明

〔主な意見・質疑等〕

村上委員：

こども議会でも出た内容で、子どもの意見が反映されることは喜ばしい。

対象を年中から小学校中学年までとした意図は何か。

こども課長：

さまざまな類似施設が他市などにある中で、施設の規模などを考慮したうえで検討している段階であるが、施設規模などから中学生以上は難しいと考えている。

石川委員：

こども議会でも、猛暑が続く近年室内で遊べる場所が欲しいと意見があり、子ども議会の参加児童である小学生くらいまでは使えるように他施設などを参考にしながら検討して欲しい。

こども課長：

他施設なども参考にし、対象については引き続き検討していく。

市長：

現在市内の大学に協力してもらい、学生の意見を取り入れながら整備を検討している。また、利用者に飽きられないような施設整備を検討したい。

堀之口委員：

旧プール施設という特性を活かした整備を検討しているのか。

教育長：

テレビなどで放映されている「SASUKE」のような遊具のイメージもある。

星川副市長：

飽きずに長く利用してもらえる施設は、跳んだり、走ったりなどの体を動かす基本となる要素が多いと聞く。

久野委員：

来場するにあたり、保護者の同伴の条件なども検討されたい。

市内でも子ども一人では来場することができないエリアは保護者の同伴が想定されるが、近隣の大田や平洲学区は一人でも来場できる可能性もある。

また、ストライダーのような遊具もあっても良いのではないかな。

堀ノ口委員：

工作ができるスペースもあるとよいのではないか。遊具で遊ぶだけでなく、保護者と一緒に何かができるスペースを整備することも検討されたい。

3 教育行政の推進に向けた意見交換

(1) 豊明市のスマホ条例について

星川副市長：

豊明市のスマホ条例について、教育委員の方はどのように思うか意見を伺いたい。

木村委員

条例として設置したことは非常に良い取り組みと考える。

石川委員：

条例とすることで、保護者が子に対する指導の裏付けとなるから良いと思う。

P T Aの方からも家庭でスマホの使い方は苦慮していると聞いている。

家庭ごとのルールを決めているが徹底することが難しいとも聞く。

村上委員：

行政が条例としてまでやる必要はないと思う。

あくまで家庭で指導する範疇であり、家庭のルールとして親の成長も必要ではないか。

結果として、意識づけとしての効果はあるとは思いますが、条例でやる必要があったかは疑問がある。

市長：

本市のこういった類の条例は、制限などをするものではなく、前向きな条例を意識している。

市長：

中学生の携帯（スマホ）の所持率はどれくらいか。

指導主事：

およそ85%の生徒が所持をしている。

石川委員：

学校において、ルール化している学校はあるか。

教育長：

学校として推奨している学校はある。あくまでひとつのきっかけとしての推奨であり、ルールとしている学校はない。また、学校にスマホを持ってくることに关しては、許可制としている学校が多い。

(2) 学校施設の空調機設置について

木村委員：

武道場への空調機設置はどのような状況か。

先日学校を訪問した際に武道場の室温が45度を示していた。

急務の課題と感じている。

教育部長

体育館は設置しているが、武道場などはついていないところが多い。

市長

トイレの洋式化や特別教室などもあるが、順番に実施したいと考えている。

財政的な視点も踏まえて検討したい。

教育長

稼働率の高い部屋から順次検討をしている。

(3) 外国籍の児童生徒について

村上委員

外国籍の児童生徒が今後、増えていくかどうか、市としてどのように見ているか。

企画政策課長

近年の転入の傾向から、地域によっては増えており、まったく日本語が話せない児童生徒も増える可能性はある。多文化共生の所管課は市民協働課で、現在は日本語教室

などの情報発信を実施している。

4 次回開催予定

令和7年（2025年）12月8日（月）午後1時30分から
603会議室（庁舎6階）